大原自治振興会便り　広報誌「おおはら」

News Letter Oohara

VOL. 35
R2.9

Content

02　新型コロナウイルス関連の取り組み

04　プロジェクト、部会、関連組織の取り組み

06　facebook、LINE、YouTubeへの登録のお願い

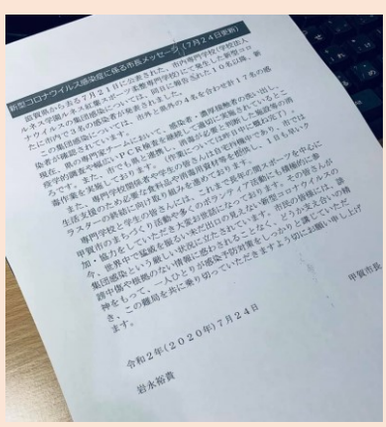
2017年　大原祇園
Photo　Yoshihide　Hirai

偏見や差別でなく優しさが拡がるように！

　学区内で7月22日に発生した新型コロナウイルス集団感染を受けて、24日緊急運営委員会をWEBで行い、新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別の防止啓発ポスターを作成しました。
　27日には行政・市民・事業者が連携して、学区内の公共公益施設、各区自治会関連の施設、甲賀駅、商業施設（ジョイショッピングセンター、ファミリーマート、セブンイレブン）などにこのポスターを貼りました。
　明日、自分が感染していないと自信を持って言える人は一人もいません。感染者になっても、地域住民が口を揃えて「一日でも早く完治するといいね！」と心強い励ましを送ってくれるのであれば、安心できますよね。無知から生じる誤解や、変な噂が広まり、自分の家族や友人までを傷つけるような事態だけは避けたい。だからこそ互いを思い合う空気を地域で創って行きたいと思います。
　恐れるべきはウイルス、人ではありません。
　正確な情報に基づき冷静に行動し、差別的な発言等に同調しないように、みんなで助け合い、支えあって、この危機を乗り越えましょう。

区自治会に加入していない約340世帯への緊急市長メッセージ配布

　7月23日から26日の連休明け27日に、区自治会に加入していない世帯約340戸に、24日の市長メッセージをポスティングしました。
　区自治会に加入している方には、甲賀市から区自治会長経由で、22日・24日の市長メッセージが回覧又は各戸配布されました。しかし、区自治会に加入していない世帯には情報発信できていない現状を見てのアクションです。
　自治振興会の広報誌を６月号から区自治会に加入していない世帯約340戸にポスティングを開始したしくみがここで役にたちました。



優しさの差し入れ

　寮で待機している学生に8月2日の朝食と昼食の40人分を差し入れしました。
　これは、集団感染の発生を受けて、学生はすべて自宅待機となっており、甲賀市は連携協定等を活用しながら、寮生や一人暮らしの学生への生活支援（食材や日用品等の配布）を行っています。今回は自治振興会から学校長に「困りごとで地域において対応できることがあれば」と声掛け、寮の食事を担当する方の休みを確保するために支援要請があり、行ったアクションでした。
　「コロナにカツって」と願をこめて地元店とコラボしてお昼は「とんかつ弁当」の差し入れ。
弁当を受け取った学校長からは「地元からの支援は本当にうれしい。ありがとうございました。」との感謝のことばを頂きました。

新型コロナウイルスはいつ誰もが感染するリスクがあります。

偏見や差別でなく
優しさが拡がるように！

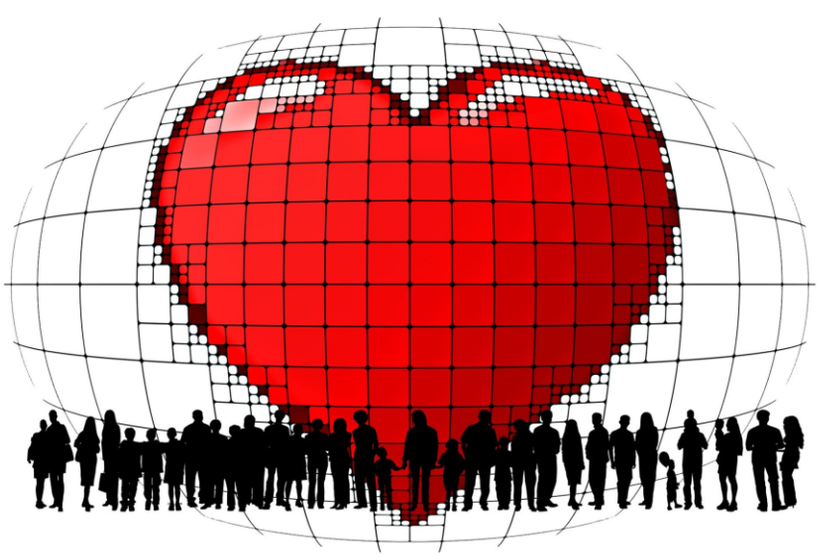
恐れるべきはウイルス、人ではない！

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、感染者・濃厚接触者、医療従事者やその家族、外国人等が、いわれのない誹謗中傷、いじめや差別的な対応を受け、心を痛めています。

明日、自分が感染していないと自信を持って言える人は一人もいません。感染者になっても、地域住民が口を揃えて「一日でも早く完治するといいね！」と心強い励ましを送ってくれるのであれば、安心できますよね。無知から生じる誤解や、ねじ曲がった噂が広まり、自分の家族や友人までを傷つけるような事態だけは避けたい。だからこそ互いを想い合う空気を地域で創って行きたいと思います。

恐れるべきはウイルス、人ではありません。

正確な情報に基づき冷静に行動し、差別的な発言等に同調しないように、みんなで助け合い、支えあって、この危機を乗り越えましょう。



新型コロナウイルスに関する相談窓口

滋賀県　新型コロナウイルス感染症に関する電話相談窓口
（１）受診に関する相談相談（帰国者・接触者相談センター）
電話　０７７－５２８－３６２１　fax ０７７－５２８－４８６５
受付時間：毎日２４時間
（２）その他新型コロナウイルス感染症に関する相談
電話０７７－５２８－３６３７　fax ０７７－５２８－４８６５
受付時間：毎日　８時３０分～１８時３０分
甲賀市　新型コロナウイルス感染症に関する相談・問い合せ先について
新型コロナウイルス感染症くらし・経済コールセンター
電話　０７４８－６９－２１３３　　fax ０７４８－６３－４５５４
受付時間：８時３０分～１７時１５分（休日・祝日も対応いたします）

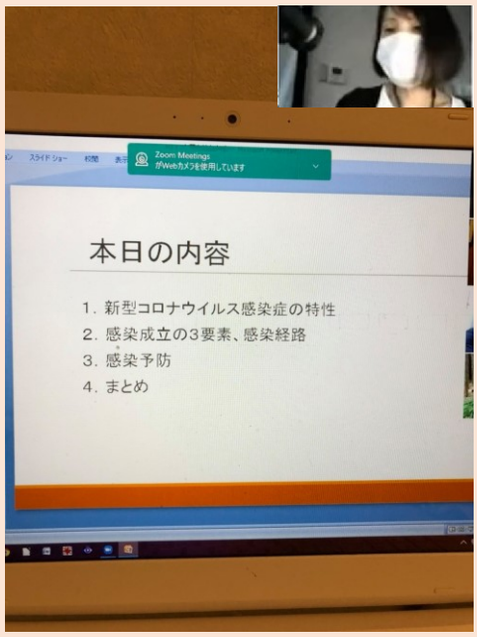
大原自治振興会

勉強会「新型コロナウイルスの理解と感染予防策について」

7月7日に第10回大原まちづくり勉強会を「新型コロナウイルスの理解と感染予防策について」というテーマで開催しました。今回は三密を避けるために、大原自治振興会の会議室を参加者の自宅等とzoomで繋いでのオンライン開催となりました。

「新型コロナウイルスの理解と感染予防策について」の講義を保健師の釜谷さんと宿里さんにしていただいたあとの質疑応答の時間では、質問や意見が活発に飛び交いました。「若い世代や子供たちに感染リスクを理解させるにはどうしたらいいか」「サロンやイベントを行う際にはどのような注意を払えばいいか」「乳幼児を持つ親として、子供の感染予防をどのようにすればいいか」などとそれぞれの生活形態や活動に即した質問が出ていました。コロナ禍の中で、何に気をつけて生活し、まちづくりに関わっていけばいいのか、とても勉強になりました。

第10回大原まちづくり勉強会「新型コロナウイルスの理解と感染予防策について」は、大原自振興会ホームページ、講義の内容はYouTube大原自治振興会チャンネルよりご覧いただけます。



納涼祭、敬老会、高齢者サロンなどを開催するか判断に苦慮

6月5日に「区長との意見交換会」を開催しました。年度当初に区長さんに自治振興会のことを知ってもらうための会で、４月開催予定がずれ込み今となりました。

今回のトピックは、WITHコロナで自治活動を再開するために、自治振興会で作成したガイドラインと事業や会議をする際のチェックシートのリリース。

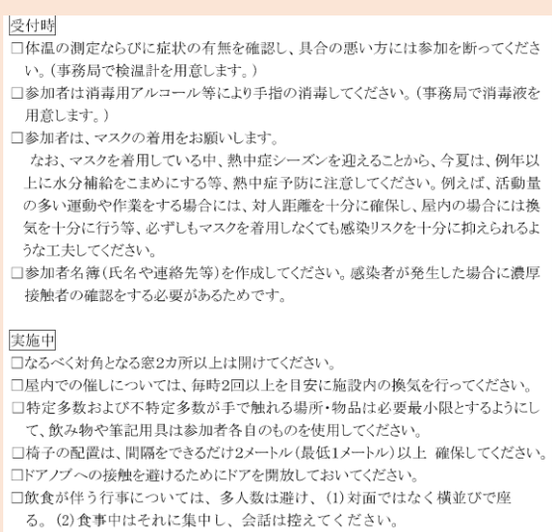
どの区長さんも、納涼祭、敬老会、高齢者サロンなどを開催するか判断に苦慮されており、各区の検討状況について情報交換したかったようで大いに盛り上がりました。多数による飲食を伴う事業は開催が難しそうだ。また、ハイリスクなお年寄りの参加人数が多いため三密の回避が困難だという声が聞かれました。今年だけのことでなはく、区自治会活動の内容を見直すよい機会かもと感じました。

WITHコロナにおける事業等の実施に係るガイドライン、チェックシート

甲賀市「事業等の実施および市施設の貸館等に係るガイドライン　（改定版）（令和 2年6月1日改定）に準拠して、大原自治振興会の事業等の実施に係るガイドラインとチェックシートを作成しました。

ガイドラインには1)新型コロナウイルスの集団発生につながる３つの条件、2)実施要件、3) 会議室の人数制限、4) 参加者の要件（案内文に記載する事項）、5) 参加者の準備品、6) 参加者の心得、7) 事業等開催時に事務局がすべきこと、8) 参加要件および対策に関する周知を記載しています。
チェックシートは、事業を行う際の申請時、案内文、受付時、実施中、終了時の守るべき点検項目を整理しています。

「WITHコロナにおける大原自治振興会の事業等の実施に係るガイドライン、チェックシート」は大原自治振興会ホームページ、その他資料よりダウンロードできます。



受付時

□体温の測定ならびに症状の有無を確認し、具合の悪い方には参加を断ってください。（事務局で検温計を用意します。）
□参加者は消毒用アルコール等により手指の消毒してください。（事務局で消毒液を用意します。）
□参加者は、マスクの着用をお願いします。
なお、マスクを着用している中、熱中症シーズンを迎えることから、今夏は、例年以上に水分補給をこまめにする等、熱中症予防に注意してください。例えば、活動量の多い運動や作業をする場合には、対人距離を十分に確保し、屋内の場合には換気を十分に行う等、必ずしもマスクを着用しなくても感染リスクを十分に抑えられるような工夫してください。
□参加者名簿（氏名や連絡先等）を作成してください。感染者が発生した場合に濃厚接触者の確認をする必要があるためです。

実施中

□なるべく対角となる窓2カ所以上は開けてください。
□屋内での催しについては、毎時2回以上を目安に施設内の換気を行ってください。
□特定多数および不特定多数が手で触れる場所・物品は必要最小限とするようにして、飲み物や筆記用具は参加者各自のものを使用してください。
□椅子の配置は、間隔をできるだけ2メートル（最低1メートル）以上 確保してください。
□ドアノブへの接触を避けるためにドアを開放しておいてください。
□飲食が伴う行事については、多人数は避け、(1) 対面ではなく横並びで座る。(2) 食事中はそれに集中し、会話は控えてください。

防災プロジェクト　地区内の自主防災組織との協働

防災プロジェクトは、７月13日、地区内の自主防災組織の責任者と「各区自治会の防災活動について」というテーマで会議を開催しました。まず各区自治会の自主防災組織の責任者から取組状況について報告があり、櫟野、拝坂、大久保では一定の取組があることを共有しました。多発・巨大化する災害に対しいろいろな側面で実効性ある対策が取れていない状況であることも認識しました。その後、防災プロジェクトが昨年作成した「災害時対応マニュアル（自主防災会　避難編）」の概要を説明しました。

今後、各自主防災組織にあった方法で利用してもらうため、出前講座を展開する予定です。

「災害時対応マニュアル（自主防災会　避難編）」は大原自治振興会ホームページ、その他資料よりダウンロードできます。

見守りプロジェクト　甲賀地域ご近所福祉推進協議会との協働

見守りプロジェクトは、6月23日と7月21日の2回にわたり、甲賀地域ご近所福祉推進協議会との連携について話し合いました。

当協議会は、旧甲賀町域の福祉課題を振興会と同様の協議体として推進するため、事務局に各学区の地域マネージャーに入ってもらい、企画・展開で密に連携することを確認しました。

行政、社協、地域の活動組織との連携を強化するとともに、見守り・助け合いの届かない部分を補完するため、当協議会の新規事業である「緩やかなご近所福祉ボランティア」活動について話し合いました。一方、見守りプロジェクトとして、拝坂のような見守り隊を各区に広げていくことを、今後検討していきます。

スマイル甲賀　大原っ子 子ども食堂、サロンの再開

コロナ禍の影響で休止されていた、「スマイル甲賀大原っ子」子ども食堂が6月29日、7月13日に、サロンが7月18日に再開されました。感染対策を万全に考えたことにより、今までとは少しスタイルが変わってはいますが、会場では子どもたちやお年寄りの元気な笑い声があふれていました。

6月29日の大原っ子のお勉強タイムのテーマは「コロナウイルスについて」、甲賀地域包括支援センターの宿里さんから教えてもらいました。そして、手の洗い方についてもしっかりと勉強できました。

7月18日、サロンでは「滑舌をよくするトレーニング」をした後、コロナ感染症の流行で困ってること、甲賀病院に行く循環バスにもコロナの影響が出ていることなどをみんなで話合いました。次回のサロンでもみんな元気で参加できるよう、コロナの終息を祈るばかりです。

歴史文化・観光交流の取組を行う団体が集まり、まずは現況共有！

行政や地域関連団体が協働して、大原地域の歴史文化・観光交流の方策を探る「第１回歴史文化・観光交流円卓会議」を7月15日、大原自治振興会主催で開催しました。

メンバーは大原自治振興会の他、甲賀市歴史文化振興課、甲賀市観光まちづくり協会（旧甲賀市観光協会）、観光ボランティアガイド、郷土史会、忍術研究会、甲賀駅を育てる会に、オブザーバーとして油日自治振興会でした。

大原・油日・佐山の連携、地域外だけなく地域住民へのPR・参加が重要、様々な祭り・宗教美術・忍者、観音様など様々資源あるのでテーマを絞る、JRウォーキングとの連携、地域の人に大原の歴史文化の素晴らしを伝える活動を行うなどアイデアがあがりました。これらのアイデアを膨らませて、今年度ひとつでも協働の取り組みを実施したいと思います。

甲賀駅前花壇植え替え

大原市場の住民有志らでつくる団体「大原市場21世紀の会」（会長岩崎延幸）は6月28日、甲賀駅前の花壇に夏の花を植え、模様替えをしました。花の苗づくりは甲南高校、苗の手配は自治振興会という３団体協働のまちづくり活動です。約２カ月後の現在、きれいな花が咲いています。

令和2年度の部会長紹介

地域環境部会　部会長　荒川巌

今年度、部会内容の一部に変更があり新たなスタートとなり、後年に伝え残せることのお手伝いが少しでもできようにと思っております。
携わって頂く全ての方々の安全を第一に進めていきます。
皆様のご理解ご協力よろしくお願いいたします。
残念ながらコロナ禍の影響により上下流地域交流事業は中止となりましたこと重ねてご理解願います。

地域教育部会　部会長　難波健吉

本部会は主に、自治振興会が開催する「子ども・子育て円卓会議」から提案された事業を各部員で検討し、行います。
しかしながら部員のみでは困難であること、また不可能なことも考えられますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。

地域振興部会　部会長　清水英明

地域振興部会として、新たなスタートを切りました。
新型コロナウイルス感染症の影響もあり、できる事業も限定されますが、みんなで協力し、智恵を出し合いながら臨機応変に事業を進めてまいりますので、地域の皆様のご理解とご協力をお願いします。

facebook、LINE、YouTubeへの登録のお願い

大原自治振興会のfacebook、LINE、YouTubeへの登録をお願いします。

facebook　LINE 友だち追加　YouTube

発行・問合せ：大原自治振興会
〒520-3435　甲賀市甲賀町相模173-1
TEL&FAX:0748-88-3111
e-mail：ohara10ku@gmail.com
編集：大原自治振興会　広報プロジェクト
発行月：令和2年9月

【編集後記】
すべての災いや病気の疫神をはらう祭礼「大原祇園」がなかった夏が過ぎようとしています。表紙は大原の無病息災を願い大原祇園としました。WITHコロナの時代に適応した自治のあり方を模索する日々です。